

先物協会ニュース

登山を始めて8年になります。それまでは休日の過ごし方といえば、ゴルフばかりでした。

山に抱かれたグリーンでプレーしていくとボールの軌跡を追いかけるだけで、季節の移ろいと共に色香を変える風景の、すばらしさを知る由ありませんでした。

四十の手習いで、山歩きのレベルで本格的な高山を目指すものではありません。

当初は、山頂に立つことが目的であり、喜びでした。

今にして思うと、頂上を克服することだけに固執して

いたように思います。

しかし最近では私の目線

は頂上を仰ぎ見るのではなく、自分の足元を観察しな

く、自分が歩きます。時間をかけ

てゆつくりと、山の持つ生

命力や木々の息吹を感じ

じながら歩を進めていく

と、踏みしめる足元の山道

は単なる土ではなく、自然

と一体となれる喜びを感じます。

私はエベレストに登頂

するだけの技能も勇気もあ

りませんが、私には私にしかできない山との係わり合

いがあると思っています。

それを今後も大切に続けていきたい。

手元に一枚の衛星写真があり、それが記念にくれた

もので、97年12月11日の地

球が漆黒の宇宙の中に美し

く浮かんでいます。

その日、世界は「京都議定書」を採択した。

I P C C を創設し、世界

が地球温暖化問題に取り組

み始めた88年以来、私も

通産省の初代地球環境対策室長、N E D O 企画部長な

どの立場でこの問題に関与

し続けていたが、96年によ

いよ担当審議官として、各

国との交渉に当たることに

なった。

最近でも京都議定書につ

いて賛否両論あることから

わかるように、当時も環境

に丹後には7年間居り、当

地でいろいろな人と知り合

い友達になりました。

同年代の各系商の販売員

達(当時、平社員でした)が

今では、それぞれ部長、常

務、専務など各会社の中心

的な存在になっておりま

す)、糸の苦情等で親しく

なった機屋の社長達。

あれから月日は流れ、私

の節目、節目に暖かい

助言や苦言を言ってくれた

り、商売の事や产地の情勢、

ご観戦のため、奈良

県磯城郡田原本町の中

央体育館をご訪問され

た。

そのときの一枚の写

真だ。バドミントン競技

の前で、お出迎えし

た多数の人達に、右手

をあげて下さいされ

る陛下。その陛下の近くに、

ご先導役の栄光に浴した藤

田会長の姿がはつきりとみ

える。

藤田会長は高校生の時か

らバドミントンの選手で、

国体の高校、一般の部で奈

良県代表として参加し、活

躍した。また、早くから奈

良県バドミントン協会役員

などを務め、バドミントン普

及ぶに控え、競技を観戦した。

しかし、試合の内容をこ

よよそ40分間、陛下の近

傍で、ホッと自分に戻つ

た。それと同時に、終

生忘れる事のできない

感覚が胸にこみあげ

てきたという。

藤田会長がバドミン

トンの選手育成と取り

組むようになつたのは、

わかくさ国体の思い出

を秘めたものだ。同社

所属の選手は昭和63年

昭和天皇の御誕生日に

お出迎えが行われた。

昭和天皇がご先導する藤田会長

の姿が、まさに神戸支所に転勤

してから7年目に転勤にな

りました。

そして農協系連の解散、

株式会社イトレンの設立、

社長の突然の死、この1、

2年いろいろな事がありま

した。

私が今の会社の前身であ

る、日本生糸販売農業協同

組合連合会横浜本所に入所

してから7年目に転勤にな

りました。

そして、体で役目を覚えたつ

たりだった。

しかし、事前に何度もリハーサル

した。体で役目を覚えたつ

たりだった。

しかし、事前に何度もリハーサル

<p